

R2.8.27		平成28～32年度計画				令和3年～7年度計画		
番号	対象者	事業名	内容	現況	目標	確認区分	課題	担当課
10	共通	特別な支援を必要とする子どもへのサービス及び資料の充実	本に親しめるようなサービスを提供し、障害のある子どもの読書活動を支援する。	デジシー音訳図書や点字図書、布の絵本等を製作している。特別支援学校へのおはなし会を開催している。	障害の特性を考慮したサービスを継続的に推進する。	拡充	・読書バリアフリー法への対応(識字障害への対応含む) 電子書籍、LLブック等 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」参照	真砂中央図書館
11	共通	特別支援学級児童・生徒の読書活動の推進	障害のある子ども一人ひとりに配慮した読書活動の工夫に努める。	児童生徒の障害の特性、生活経験を考慮した図書を選定したり、読み聞かせやパネルシアター等読書の意欲の向上を図る工夫を行っている。	児童・生徒の障害の特性等を考慮しつつより充実を図る。	拡充	・特別支援学級ではないが、配慮が必要な子どもが増えている。学習障害、識字障害等広い概念での検討が必要。 ・授業中、図書室に個別に入室する子どもたちへの図書館支援員の対応。 「学校図書館における特別なサービスと資料の提供に関する基本方針」参照	小・中学校
13	共通	外国語図書の整備、充実	多言語にわたる外国語図書を収集整理し、必要とする子どもの読書活動を支援する。	水道端図書館を中心に各館で外国語の絵本を所蔵している。	絵本以外の外国語図書等も収集し、より充実を図る。	拡充	・絵本以外で必要とされているものは何か。例：辞典 ・どのように選んでいくか。 ・英語以外の言語の絵本の充実。 ・読み聞かせ等行事の取組み。	真砂中央図書館
18	乳幼 小 中高	区内の大学等との連携の推進	区内にある大学、専門学校等と連携協力して、子どもの読書活動推進を図る事業を実施する。	大学生のボランティアグループによる児童行事を実施している。	より多くの大学等と連携し、新たな事業展開を図る。	拡充	・大学・専門学校だけでよいか。 ・YA世代への働きかけ ・読み聞かせ以外の事業展開	真砂中央図書館
35	乳幼 小 中高	地域社会における人材・団体への支援	地域施設で読み聞かせやストーリーテリングなどを行う団体の交流や、情報交換の場を設け、また、団体の活動を支援する。	ボランティア団体や子育てサロンの活動のPR等を行い、読み聞かせの活動を支援している。入院中の子どもに読み聞かせをする団体の事業費を助成している。	引き続き、地域社会で子どもの読書活動推進に関わる人材や団体への支援を行う。	拡充	・地域で活動する団体の把握 ・どのような連携ができるか	社会福祉協議会
27	乳幼 小 中	子どもへの啓発	子どもの成長段階に合わせ、利用案内やブックリストの配布を行う。→ブックリスト等の配布は「6ブックリストの作成」に含む。健全育成事業等において、読書活動の取組を推奨する。	子どもの成長段階に合わせ、利用案内等を各校・園へ配付している。健全育成事業においても啓発に取組んでいる。	引き続き子どもと本をつなぐ事業の展開を図る。	変更	・35にまとめる ・地域の子供向けのイベントの参加機会を増やす。	真砂中央図書館 児童青少年課
19	小 中高	読書活動を推進する団体等との連携の推進	子どもの読書活動に関わる地域や民間の関係団体との連携を深め、情報交換や人的交流を促進する。	図書館振興財団と共催で「文京区調べる学習コンクール」を開催しており、26年度は小学校から中学校まで応募総数1,864点あった。	引き続き団体等と連携し、事業展開を図る。	変更	・35にまとめる。 ・調べる学習は23へ	真砂中央図書館
17 【重点】	中 高	YA(ヤングアダルト)を対象としたサービスの充実	図書館ホームページの「10代のためのYAページ」の充実とともに、YAコーナーや専用席を設け、資料収集や展示を工夫して読書環境を整え、YA世代の利用促進を図る。	新規YA世代(13～18歳)の貸出数116,840冊(26年度)	魅力的で使いやすいYAコーナー等にして、YA世代の読書への意欲を高める。	拡充	・読書離れが顕著と言われる世代への対応	真砂中央図書館
29	他	「文京区子ども読書活動推進計画」実施のための進行管理	計画推進のためのセンター機能を真砂中央図書館に置き、計画の進捗状況を管理する。	「文京区子ども読書活動推進計画」の進捗状況について調査している。「文京区子ども読書活動推進会議」を設置し、毎年開催している。	推進会議を通して計画の進捗を管理し、本計画の効果的な推進に努める。	変更	・進捗状況を管理する客観的な機会が必要。	真砂中央図書館
-	共通	入院中の子どもへのサービスの充実	小児病棟等病院側のニーズを汲み取り、病院図書館にない図書のサービスを提供する。	読み聞かせの実績があるが、感染症対策等病院側の都合により実施できないことがある。	入院中の子どもたちに、読書の機会を提供する。	新規	・病院図書館との連携 ・どのようなニーズがあるか。 ・サービスの周知が必要。	真砂中央図書館
-	共通	こどもの居場所としての機能の推進	家庭と学校以外の安心して居られる場所として、読書を通して子どもたちの居場所としての機能を持つ。	不登校や家庭の事情等で、家庭と学校以外に行く場所がない子どもたちがいる。	読書を通して、地域が地域の子どもの支える仕組みづくりをすすめる。	新規	・情報が行き届いていない家庭への周知の工夫が必要。 不登校の児童等	真砂中央図書館
8	乳幼 小	幼稚園・保育園・児童館等の図書と設備の充実	成長段階に合わせ、子どもが興味や関心を持った本、子どもに薦めたい本を充実させる。子どもが自由に本を選べるよう親しみやすい環境を整備する。	絵本を中心に所蔵し、季節や行事に合わせて展示コーナーを設けている。	図書の充実と環境の整備を図る。	継続	-	幼稚園 保育園・児童館

9	乳幼	乳幼児とその保護者が利用しやすい環境作り	乳幼児向け絵本や育児に関する図書を充実させ、親子で楽しく安心して利用できる環境を整備する。	新規 0歳～6歳児の貸出数 151,115冊(26年度)	0歳～6歳児の貸出数 180,000冊	拡充	・2019実績:214,112点 ・小石川、湯島の改築に伴う児童コーナーの整備	真砂中央図書館
31	乳幼 小中	職員・教員の研修の充実	子どもの読書活動推進に関わる研修等を実施する。	区立幼・小・中学校教育研究会による研修を実施している。	各種研修等を通して職員・教員の資質向上を図る。	変更	・32にまとめる。	真砂中央図書館 教育指導課 幼稚園・小・中学校 保育園・児童館
32	乳幼 小中高	図書館職員の研修の充実	子どもの読書活動推進に関わる研修等に参加する。	司書講習や、都立図書館等で実施している研修に参加している。各自が情報収集や講習会に参加するなど、自己啓発に努めている。	各種研修等を通して図書館職員の資質向上を図る。	変更	・学校図書館支援員の研修も含める。	真砂中央図書館
15	乳幼 小中高	区関係機関との協力・連携体制の推進	区の関係機関と情報交換を行い相互の連携による事業を行うなど、図書館内外での子どもの読書活動推進に努める。	子育て支援課主催の「子育てフェスティバル」に参加するなど区の関係機関と連携している。	乳幼児から高校生に関わる機関との連携をより密にして、引続き読書活動の推進を図る。	拡充	・これまでの実績をもとに、他の部署との更なる連携の可能性を探る。	真砂中央図書館
20	乳幼 小中高	区内にある児童図書出版社や書店との連携の推進	区内にある児童図書出版社や書店と連携し講演会等を実施する。	区内の児童図書出版社と共催し、絵本原画展や作家の講演会等を行っている。	出版社や書店等と連携して魅力的な事業を実施し、読書活動の推進に努める。	拡充	・目的を明確にして、区内出版社等に積極的な企画の提示が必要。	真砂中央図書館
33 【重点】	乳幼 小中高	図書館ボランティア(ライブラリーパートナー)の育成と連携	子どもの読書活動推進のために図書館ボランティアを育成し、活動の場を提供する。	図書館ボランティア研修を実施している。	計画的に研修等を行い人材を育成し、協働して図書館事業に取組む。	拡充	・読み聞かせ以外の活動の拡大	真砂中央図書館
6	乳幼 小中	ブックリスト(推薦図書)の作成	乳幼児からYA世代まで成長段階に合った多様なブックリストの作成・配布を行い、読書のきっかけを作る。	乳幼児向けに「えほんがすき」、小学生に「読んでみましょう」、中学生に「yomitan」等、成長段階にあったブックリストの作成・配付を行っている。	年代に合わせた推薦図書の紹介等引続き内容の充実を図る。	継続	・HPの活用、周知 ・対象を高校生まで拡大する。	真砂中央図書館
12	乳幼 小中	子ども向けホームページの充実	読書へのきっかけ作りのために図書館ホームページの「こどもページ」を充実させる。	おすすめ本のリストや子ども向け行事案内を掲載している。	より見やすくわかりやすいホームページを作成し、さらなる情報発信を積極的に行う。	拡充	・システム更新による改善に伴い、HPへのアクセス数を増やす。 ・休館等利用が制限された場合を見越した情報発信の強化。	真砂中央図書館
26	乳幼 小中	保護者等への啓発	校・園だより等を通じて子どもの好む本や読んで欲しい本を紹介し、また、講演会等を行い、読書や読み聞かせの大切さを伝える。	校・園だより、ボランティアによる読み聞かせ、講演会等による啓発を行っている。	より多くの保護者へ啓発するために引続き充実を図る。	拡充	・家庭環境等による情報格差の解消。 ・保護者への直接の働きかけが必要。 ・親に障害がある場合の支援	真砂中央図書館 幼稚園・小・中学校 児童青少年課 保育園・児童館
27	乳幼 小中	子どもへの啓発	子どもの成長段階に合わせ、利用案内やブックリストの配布を行う。→ブックリスト等の配布は「6ブックリストの作成」に含む。健全育成事業等において、読書活動の取組を推奨する。	子どもの成長段階に合わせ、利用案内等を各校・園へ配付している。健全育成事業においても啓発に取組んでいる。	引続き子どもと本をつなぐ事業の展開を図る。	変更	・地域の子供向けのイベントの参加機会を増やす。	真砂中央図書館 児童青少年課
30	乳幼 小	文京区の子どもの読書活動に関する情報窓口(ポータルサイト)の充実	図書館ホームページのポータルサイト「子ども読書の部屋」の充実を図り、情報発信の拠点とする。	ポータルサイトに図書館行事や講座案内、夏休みの小学生向けおすすめリスト情報、子ども読書活動推進計画の進捗状況調査結果等を掲載している。	情報窓口のさらなる充実を図り、広く読書活動の推進に努める。	変更	・子ども読書活動の周知	真砂中央図書館
1	乳幼	ブックスタート事業の充実	保健センターで実施される4か月児健診時に、絵本の読み聞かせを行い、絵本や図書館の紹介が入ったブックスタートパックを手渡し、親子のふれあいを通じた本との出会いのきっかけ作りとする。	対象者の98%(26年度実績)	4か月児検診参加者全員への配付を継続するとともに内容の充実を図る。	継続	2019実績:対象者の98%(2,010人)	真砂中央図書館 保健サービスセンター
2 【重点】	乳幼	ブックスタートのフォローアップ事業の充実	ブックスタートから継続して読書活動が行われるように、読み聞かせを行い図書館バッグと絵本を配付する「としょかんとなかよし」を月1回実施する。	1歳6か月児を対象 対象者の27%(26年度実績)	広報活動に努めるとともに内容の充実を図る。	拡充	・身近な施設での実施が望ましい。根津、大塚での「としょかんとなかよし」の実施について要検討。 2019実績:対象者の33%(配付数674袋)	真砂中央図書館
3	乳幼 小	おはなし会や読み聞かせ等本に触れる機会の提供	日々の活動の中におはなし会や絵本・紙芝居の読み聞かせを積極的に取り入れ、子どもの想像力や豊かな心を育てる。	各施設で読み聞かせやおはなし会を実施し、絵本コーナー等も設置している。	本に触れる機会を増やすなどより充実を図る。	継続	—	幼稚園・保育園・児童館
4	乳幼 小中高	成長段階にあった行事の充実	乳幼児からYA世代まで成長段階にあった行事を充実させ、子どもが本に親しむ機会を提供する。	乳幼児向け読み聞かせの会や、小学生向けおはなし会、YA向け読書会等を実施している。	乳幼児向け行事 300回 小学生・YA向け行事 200回	変更	・実績は目標を満たしているため、内容の充実を含めた目標の見直しが必要。 乳幼児向け 実績:300回 小学生・YA向け 実績:490回	真砂中央図書館

16	乳幼	子育て支援施設における読書活動の充実	「びよびよひろば」や「子育て広場」等子育てを支援する施設で、絵本コーナーの設置や読み聞かせ等を実施する。	子育て講座等で絵本を活用している。	子どもが読書に親しむ機会を増やすため、読み聞かせ等を引き続き充実させる。	継続	—	子育て支援課 子ども家庭支援センター担当課
28 【重点】	乳幼	プレママ・プレパパへの啓発	妊娠時からの読書活動の重要性を伝える。	母子手帳交付時の「母と子の保健バッグ」に啓発チラシを同封している。プレママ・プレパパも参加する行事で読書の大切さを伝えている。	引き続き子どもの読書活動の意義を伝える。プレママ・プレパパへの事業数 10回	継続	—	真砂中央図書館
5	小中	学校における読書時間の確保	「朝読書」「読書の時間」等学校活動における読書時間の確保に努める。	全小中学校で「朝読書」または「学習活動内での読書の時間」が実施されている。	本に触れる機会を増やなどより充実を図る。	継続	・新学習指導要領への対応 ・「学校図書館ガイドライン」に沿った運営	小・中学校
7	乳幼 小中	学校や施設との連携・支援体制の充実	区内の子どもと関わりのある各施設と連携して、ブックリストの配付、団体貸出、出張おはなし会、リサイクル図書の提供や情報交換等を行い読書活動を支援する。	各施設が団体貸出や行事等で図書館を利用している。	連携を強化し、内容の充実を図る。	継続	・連携実績のない施設への周知 ・学校図書館との連携内容の見直し	真砂中央図書館 幼稚園・小・中学校 保育園・児童館
21	小中	読書指導計画の策定	毎年度、読書指導の目標を設定し、年度計画に基づく読書活動の推進を行う。	各読書指導計画(読書活動年間指導計画)等策定 小学校7校、中学校3校(26年度実績)	より多くの学校で策定されるよう、引き続き推進に努める。	継続	・指導計画を策定することの効果の検証 ・新学習指導要領への対応 ・「学校図書館ガイドライン」に沿った運営	小・中学校
22	小中	学校における読書活動の推進	読書推進期間の設定や、ブックリストの作成、学校図書館・区立図書館の利用促進等、多様な読書活動を推進する。	各学校で、本の紹介の工夫、推薦図書の選定、読書量の設定、図書館の利用指導等特色のある読書活動を実施している。	児童・生徒が読書を楽しめるようより充実を図る。	継続	・新学習指導要領への対応 ・「学校図書館ガイドライン」に沿った運営	小・中学校
23	小中	調べ学習への支援	学校図書館や区立図書館の活用を促進し、児童・生徒の調べ学習への支援をする。	調べ学習のために学校図書館が利用されている。また、区立図書館では調べ学習用図書を購入し団体貸出も行っている。	区立図書館と学校図書館が連携をとりながら調べ学習用の図書等を充実させる。	拡充	・連携強化+役割分担 ・新学習指導要領への対応 ・調べる学習を使って公共図書館と連携「学校図書館ガイドライン」に沿った運営	真砂中央図書館 小・中学校
24 【重点】	小中	学校図書館への人的支援による機能の充実	学校図書館へ司書を派遣し、学校図書館機能の活性化を支援する。	学校図書館での貸出数 42,321冊(平成26年度)	学校図書館の環境整備と児童・生徒への読書への意欲を高める工夫をし、利用促進を図る。 学校図書館での貸出数 100,000冊	変更	・学校図書館の運営と支援員の役割 ・学校規模に応じた支援員の配置 ・「学校図書館ガイドライン」に沿った運営 ・「学校図書館に関する職務分担表」(全国学校図書館協議会)参照 ・「学校図書館における特別なサービスと資料の提供に関する基本方針」に沿った運営 2019実績:283,793冊(指定管理者報告)	真砂中央図書館 教育指導課 小・中学校
25	小中	学校図書館資料の充実	魅力ある本や調べ学習に必要な本の充実を図り、計画的に廃棄や購入を行う。	学校図書館図書標準充足率(26年度実績) 100% 小学校7校、中学校3校 90~99% 小学校8校、中学校4校	学校図書館標準充足率 全小中学校100%	継続	・図書標準等は満たしているが、蔵書構成に基づく計画的な資料の除籍・購入の仕組みづくりが必要。 ・新学習指導要領への対応 ・「学校図書館ガイドライン」に沿った運営 ・「学校図書館における特別なサービスと資料の提供に関する基本方針」に沿った運営	学務課
34	小中	学校図書館のボランティアへの支援	学校図書館のボランティア向けの研修等を実施する。	小学校図書館のボランティア向けに研修を実施している。	研修等を通してボランティアの資質向上を図る。	継続	・ボランティアの活動実績の周知 ・ボランティア同士のネットワークの形成	真砂中央図書館
14 【重点】	共通	オリンピック・パラリンピックに向けた図書の充実	東京オリンピック・パラリンピックに向けて、広く資料を収集・提供し、オリンピック・パラリンピックや諸外国についての理解を深め、読書の幅を広げることを支援する。	新規	オリンピック・パラリンピックへの理解を深めるために関連本等を収集するとともに、積極的な情報発信を行い、利用促進を図る。	廃止	事業としては、継続しないが、調べ学習の充実、多文化サービスにつなげる必要がある。	真砂中央図書館